

# 校友会報

第 22 号

昭和48年1月31日

日本大学工学部校友会

福島県郡山市田村町徳定字中河原一  
電 話 郡山 44-1327  
振替口座 郡山 1990  
郵便番号 979-66  
発行人 佐藤光正  
編集人 平手仁



東北縦貫道郡山インターチェンジより安達太良山を望む

# 年頭の挨拶



輝かしい、希望に満ちた昭和48年の新春を迎へ、校友諸兄に対し、謹んで新年の御挨拶を申し上げます。顧みますと、木造の校舎から、鉄筋コンクリートの校舎に変り、昔日を語る者には、今日の姿は白亜の殿堂であります、更に教授陣容の充実又、図書館、研究室、実験室、

研究設備、実験設備、等の付帯施設の完備、学生のために、学術、文化、体育などの諸活動の施設も完備して参りました。しかし、何と申しても特記すべきは大学院が開設されたことであります。現在、修士コース39名、ドクターコース3名と、本学の内外から好学の士が集い学んでいます。

母校の在学生は、5,081名の多きを数え、正に名実共に立派な学園として歩んでおります。

母校の姿が、今日のようになったのは、恩師の熱心な教育者魂に徹した御教導と、自己完成に若き血潮を燃やす学生諸君、又、社会人として各方面に活躍される9,500余名の校友などが、一丸となった真摯な労があったからであると思います。

会長 太田 雄八郎

今や社会は、日本列島改造論の是非が論じられています、日本の国土を如何に利用し、民族の幸福をかちとるかは、實に我々、若きエンジニアの双肩にかゝっていると申しても過言ではありません。

現に、母校の地郡山にも、国造りの業は進展し、東北高速自動車道が、本年の十月頃には、白河より郡山まで開通の予定であり、又、東北新幹線も、なつかしい日大橋のたもとを通り、御代田～徳定～日出山と入りくんだ阿武隈川を、日本でも例をみないPCコンクリート桁で作られた、第二、第三の長大架橋で結ばれる計画であります。本年の三月には、草々にこの基礎工事に着工する予定であります。

今や、郡山も人口25万人を擁し、東北の玄関口にふさわしい姿になって参りました。一つ郡山に限らず人間の住むところがこの様に発展し、公害のない平和な住みよい町になるのは皆んなの願いであります。私達が、少なくともこのために微力ながら貢献出来るのは誠に幸の限りであります。どうか校友諸兄におかれましては、充分に健康に留意され、職責完遂のため御活躍あられんことを期待して年頭の挨拶にかえさせて戴きます。

(筆者 土木工学科3回卒)

## 東海支部結成について

日本大学工学部校友の皆々様益々御精勤のことと存じます。かねてより校友会本部の懸案であります東海支部が去る9月2日名古屋駅前ホテルニューガヤにおいて太田会長を始め武藤副会長、佐藤事務局長、松山事業部長、水田経理部長出席のもと東海在住の50余名の出席によって東海支部会則案等を万場一致で可

決し東海支部が誕生致しました。その後懇親会に移りよもやま話に花が咲き、時のたつのも忘れるムードのうち閉会となりました。

なお、支部役員及び事務局は左記のとおりでありますので御来名の際は是非お立寄り下さい。

| 役名   | 卒業    | 氏名   | 勤務先             |
|------|-------|------|-----------------|
| 支部長  | 土木3回  | 平野 卓 | 建設省中部地建庄内川工事事務所 |
| 副支部長 | 機械3回  | 緑川秀人 | 株式会社共栄社         |
| 会計監査 | 機械1回  | 鈴木平八 | 矢崎工業株式会社        |
| 事務局長 | 土木6回  | 河野 叶 | 東名開発株式会社        |
| 理事   | 機械4回  | 中村純郎 | 新三菱重工業名古屋機械製作所  |
| "    | 土木5回  | 荒井勝雄 | 日特建設株式会社名古屋支店   |
| "    | 電気6回  | 重田英生 | 川北電気工業株式会社      |
| "    | 電気6回  | 赤星 嶽 | 林電気商会           |
| "    | 建築7回  | 遠山 宏 | 滝上工業株式会社        |
| "    | 建築12回 | 岡田利一 | 丹羽建築事務所         |
| 事務局  |       |      |                 |



# 親愛なる校友諸兄

日本大学評議員 武田仁幸



はからずも過去3年間の会長の職に引きつづき、昨年の10月、日本大学評議員の御指名をいただき、栄えある職を御引受け致しました。これも偏に皆々様のご友情の賜ものと深く感謝申し上げます。特に敬愛する諸先輩、新役員理事、及び評議員の皆様の御協力を仰ぎながら、

伝統と格調高い日本大学の評議員と日本大学校友会本部常任委員の責任を果させていただきたいと考えておりますので、何卒、御支援、御鞭撻賜りますよう、お願い申し上げます。

さて、70年代は、激動の年代とか呼ばれてから、はや3年の月日が流れ、宇宙においては月への探検、そして世界が注目するベトナムの和平が締結しようとしております。

この明るい世界ニュースの中にも、一歩皆様の地域社会、いや私のそれも、絶えず拡大する次の様な諸問題に直面しております。屑と塵埃による河川、海洋の汚濁、又、空気の汚染等、自然の荒廃は目に絶するものがあとをたちません。

いかに高度経済生長世界第何位と叫んでも、人間は人間がひき起した憎悪と恐怖の中に立って、生活しなければならない事に限りない不安が、つきまとうのであります。この様な問題を引きおこした人間は、人間の力によって解決策を見出しうる筈であります。

しかし誰かがこの媒介の役を果さなければなりません。この媒介役が我々、若い世代の人達であり、我々若いエンジニアであると思います。これらの環境問題の研究にもっと多くの時間を費すことこそ、人々が共存の道を学ぶことであると考えます。各会員諸君

がこの問題を深く研究し、現在世に問われている日本列島改造論を理解し、未来世代の人達への良き贈り物としたいと思います。

小生も機会がありました、昨年は東南アジア諸国とハワイ諸島を見学して参りましたが、日本人に生まれて良かったの一言につきるのではないかと思います。会員諸兄も諸外国等を視察し、おることと想いますが、日本の良さは、日本を離れて初めて知る喜びだと思います。この日本が、28年前戦いに敗れた國かと思われることでしょう。特に私が参りました東南アジア諸国の実態は日本の戦後の混乱期と同様です。現在タイ国が日本商品ボイコット、日本資本による企業への弾圧はなるほどとうなづけます。バンコクの夜空に輝くネオンは、日本を代表する企業の日本商品名がところせましと目に入ります。又、ハワイでは、日本人の仕事を返せと騒いでおるとか聞きました。ハワイの各職場での中心的地位の人達は、ほとんど日系の人達がしめておるとの事です。ホテルで見るテレビ、レストランでの飲物、買物店に揃ふ品物、メイドインジャパン各種。この日本人が街を歩く姿を見れば、前かがみで、せわしく歩き、外国人には神風旅行者と笑われておる姿は何ともいただけません。

もっと世界に誇る日本人。胸を張り、外国人に話しかけられても答えられる日本人になろうではありますか。

この旅行記は何かの機会にまたこの誌上でお目にかかる事に致し、新任の挨拶と致します。

最後に、校友諸兄の御繁栄と御健康をお祈り致します。

(筆者 土木工学科第3回卒業  
工学部校友会前会長)

## あかしや図書の供与について

昭和35年度から実施してきた「あかしや奨学生制度」による奨学金支給は、本年度春の定期総会におい

て廃止となり、新たに「あかしや図書供与」の制度に切替えられた。廃止の理由については、7月に発行し

た校友会報第21号(3頁)に太田会長が挨拶の中に述べてあるのでここでは省略します。

新制度を執行するについての「規定」は理事会・役員会で慎重に検討し審議を重ねた結果次のとおり決定したので掲載してお知らせいたします。

#### あかしや図書供与規定

第1条 日本大学工学部校友会(以下これを校友会と称する)会則第3条の趣旨に基づき本規定を設ける。

第2条 校友会は第1条に従い、日本大学工学部(以下これを工学部と称する)の学術研究振興ならびに教育助成の一環として、図書購入費を工学部に補助する。

第3条 補助費相当の図書購入に関する一切の事務手続きは、工学部に委任する。

第4条 工学部は購入した図書に、校友会が供与した事を示す校友会印を押印すること。

なお、当印は校友会が作成し、工学部に委ねるものとする。

第5条 購入した図書の管理・貸出事務等の一切は、

工学部に委任する。

第6条 工学部は購入した図書名と価格を校友会に通知すること。

第7条 校友会は通知された購入図書名と価格についての記録を、年度別に保管しなければならない。

第8条 図書購入の供与額・方法については、以下のとおりとする。

- (1) 供与額 一ヶ年30万円
- (2) 供与方法 一括現金(小切手も可)供与
- (3) 供与日 九月末日

第9条 工学部は納付された図書購入費の受領書を、校友会に発行すること。

ただし、書式は、校友会の所定用紙を用いるものとする。

第10条 この規定を運用するために工学部と校友会はお互に意見を交換することができる。

その他の詳細な部分について必要ある時は、理事会にて決定する。

第11条 本規定は昭和47年4月1日から実施する。

## 実験報告

### ガードパイプ衝突実験

機械工学科人間工学研究室(主任研究員:副島海夫教授)は、7月下旬から8月5日までの期間に、Guard Pipeと自動車との衝突実験を行った。この実験は日刊工業新聞の東北、北海道版にすでに報道されていますが、新めて校友会報を通じて御報告申し上げます。

この衝突実験は、昨年末に伸和技研工業株式会社、代表取締役井上源基氏(第二工学部機械工学科35年度卒業)を通じて、(株)東京フェンス工業(東京都荒川区、社長佐藤明平氏)の依頼で日本大学工学部外木有光教授に持込まれたもので、人間工学研究室が実験を行ったものであります。

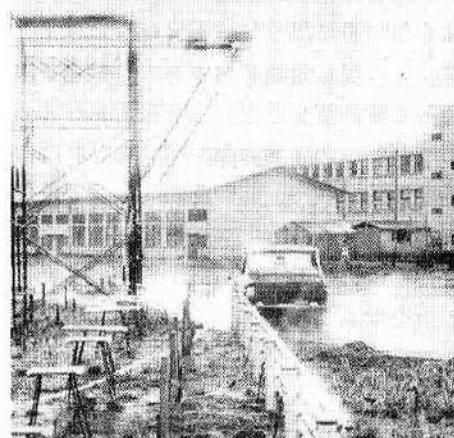
実験の目的は、東京フェニス工業が昨年開発したガードパイプ「Safety Guard fence」の強度、及び緩衝効果、ガードパイプの破損状況、衝突車の転進への影響等を知るためにあります。

実験の概要を簡単に説明しますと、自動車に拘束装置を付けてレール上を走行させ、これに対して20度の角度に設置させてあるガードパイプに衝突させる。実験車は4台で、39年度日産ブルーバード、41年型トヨタコロナ、38年型トヨタクラウン、41年型三菱キャラバンを使用した。

## 校友だより

校友の皆さん、思い出多き1972年も暮れ、希望に輝く1973年、おめでとうございます。

早いもので、卒業後、14回目の正月を迎える、今更「光陰矢のごとし」を実感し、日々驚いているもの



## 次山庄 感想

ですが、校友会事務局からの原稿依頼を機会に、過去を振り返ることも、一計と書き連ねてみました。多忙の折の原稿ですので、まとまりがないかと思いますが、先にお詫びしておきます。

まず、朝日土木株一注、現在の竹中土木株一に入社早々、東北支店勤務を命ぜられ、三ヶ月半程、支店内で、毎日接する諸先輩から、漠然とした諸々のものを、勉強させられたが、今でも忘れられない言葉が、二つある。

一つは「技術屋は、三年で一人前になれ！」一年目は、人を見習え！二年目は、考えよ！三年目は、それらを実行せよ！」と。

この言葉の中には、社会人として、又人間としての成長途上に於ける、各々の過程を示すと共に、暖かい指針を、与えてくれたものと思う。現在でも、難題を解決する一手法として、時々思い出しては、利用している。

もう一つは、「自分のカラーを造れ！」と、この言葉は、当初、簡単に、「闇」あるいは、「我」を通すことかとも考えたが、もとより、そのようなことは、人一倍、拒絶反応を示す、自分には到底できず後記する各現場を、転々とする間に、「自分のカラーを造る」と言うことは、「闇」とか、「我」とかというものでなく、一生涯かかるて造り出せるものか、又不可能かも知れぬ、偉大なものであることを知った。現在では、臨機応変に、種々難多な「カラー」を、何時如何なる時でも、出せるように、人間的、技術的にたくわえておかねばならないと、先輩の言葉を、時折思い出しては、反省し、感謝している。

初めての現場は、青森県岩崎村での、東北電力㈱の水路トンネル補修工事で、昼夜の別なく、二ヶ月の断水期間で、担当工区を、突貫工程より、10日も早く竣工したが、その時、請負の厳しさ、悲しさ等を、身をもって知らされたと共に、人間の「心意氣」「信頼感」「誠実さ」が、如何に大きく、「無限の力」をもっているかを、痛切に、教えられたことが、印象強かった。

次は、須賀川市内での、東北本線々増工事に於ては土質管理、コンクリート管理、写真管理等を、させられたが、若さと体力にまかせて、各種試験、あるいは提出書類にと、ストーブの火が消えては、石炭をくべ

ながら、連日連夜の残業を重ねては、竣工検査、会計検査等を、無事済ませての現場引揚げは、人には言えぬ心境であり、現場屋みょうりであると思う。

この心境が「生きがい」であり励みなのかも知れない。次の二本松、本宮での4号国道改良工事と東北本線々増工事とに、二年余従事し、時折、国道事務所を通じて、校友諸先輩の会合に出席させて頂き、貴重な、暖かい体験談等を、再三再四、拝聴することが出来たことは、非常に参考になり、幸運であった。

以上の各現場で体験した多くのものが、現在でも大きな支柱となっている。やはり社会人となってからも、「三つ子の魂、百まで」が適用するのかと思うと、教育や、経験の持つ恐しさと恥かしさを感じる。

以後、横浜を初め、各地各所の多くの人々と接する機会を与えられ、諸々の思い出と共に、「人の心の暖かさ」を勉強させられた。それ故、最近マスコミに、連日、日本列島改造論を叩き台に、公害問題が取り上げられているが、土木工事は、地域社会の財産を主に造るのであるから、「我々が、造るもののが、それらを利用される人々に、愛されるものでなくては、その造られたものは、生命力を失ってしまう。」

そのためには、計画、設計、施工等、各々の立場においても、その都度誠意ある思いやり、いたわりの、暖かい、心遣いが、隅々まで浸み透っているものの、積重ねであるならばそれらを利用される人々にも、心して、利用して頂けると共に、諸々の公害も、多少は減らせるものと思う。

日進月歩の、激しい限りない技術に、各分野で直面し、活用され、利用している多くの校友の皆さん持てる、「おもいやり」のある各々の方で、より明るい暖かい、限りない世の中にすべく、努力し、かけがいのない、自然や、国土や、人々を守り、次の世代に、悔いのないものを残すべく、今年も、大いに前進しようではありませんか！

(筆者 土木工学科第7回卒業

竹中土木KK 東京本店工事部第一工務課長  
)

## 友 の 力



騒音と公害、そして四季折々の移り變りさえ知らずに東京と云うマンモス人口の中で過して早十幾年……。

希望に溢れた学生時代には、想像もつかなかった様々な会社内の人間関係や仕事上の思惑等々……。年々才々きたえられ鞭打たれ乍ら、勤務十幾年にてようやく一人前と目されるまでになった。その様な生活の中でふと思いつかれるのは共に学び共に遊んだ校友

## 岡 村 明

一人一人の消息である。或時は口角泡を飛ばして政治や文学を語り、或時は純粋な恋の悩みに寝もやらず語りあかした友！友！友！

人並に幸な家庭をつくり……仕事に追いまくられ…ゴルフにうつゝを抜かし……勉強の余裕さえない毎日乍らも、いつも胸の中をよぎるものは、とてつもなく大きな夢を抱き、こわいもの知らずに、やりたい放題をして来た四年間のなつかしい学生生活ではある。そんな中で有志が集り、離れ離れの友とのつながりを深め様との会合が計画された。不明の住所を人伝にたづね、たった一人の手落ちもない様にとの配慮の下に、

徹夜で原稿を書き、印刷をし、宛名を入れ投函——。学生時代にかえった様なたのしさと期待に胸おどらせて……。だが残念乍ら期待は見事にはずれ300通近いものに対して僅か15通ばかりの出席の返事があったばかりであった。遠い友とのつながりのない空しさに心傷む思いであった。然し乍らこの意図に対して5人の友の協力は一方ならぬものがあった。思えば卒業と同時に夫々の職場へと向って行った友えと、初年兵のつらさ、さびしさを共に語らい慰め合おうと、36年度第10回建築科卒、東京在住者の集いを計画したのもこの5人であった。名付けて「36'建築アカシア会」そのアカシア会も毎年例会を持ち、すでに10回を重ねて、今年は特に広く皆に呼びかけ、10周年記念の集いを有意義に、且卒業以来十幾年振りかの友との会合の喜びを倍増したかったのではあったが、期待も空しく仏不成功に終ってしまった。誠に残念であった。がその中にも幾人かの人々の絶える事のない小さな芽の「友の力」の息づきをみた。その小さな芽が、

## 「アストロベス郡山に集う

先輩及び同輩諸君、多忙な毎日をお送りの事と存じます。我々も卒業して早や7年、各々会社の中堅として質実剛健、おおいに働いております。

さて、我々は在学時代学問よりも校門の外で勉強することが多く、団体でスキー、ドライブ、飲み会等々……卒業時は単位不足で卒業出来るか出来ないかという人間が三分の二ほど居るグループがありました。そのため「アホウの寄り集り」という事でアホウ鳥（アルバトロス）とグループの名前をつけました。しかしアストロベスの方がゴロが良いため、現在もアストロベスという名のもとに、1年に1回の民族大移動を楽しんでおります。

第1回目の集いを大阪で開き、その後、東京、三重富山、静岡、長野と毎年集り、今回第7回目の集りを郡山で行いました。当初10年たったら郡山へもどり、恩師および下宿の御主人をお呼びして、ささやかなお礼でもしょうと約束し卒業しました。しかし昨今の時代の流れが卒業時に比べ、大部早いテンポに移りつつあるため、7年目ではありますましたが9月24日郡山のホテル染本にて宴会を持ちました。

アストロベスのメンバーは14人であります。当日仕事の都合で出席出来なかった人が3人いましたが、全員元気に第2の故郷郡山へ行きました。恩師である吉沢・菅野・柳沼の諸先生に御臨席を賜わり、又郡山

来年度、再来年度と会合を持つ毎に大きな枝となり葉となって、やがてはわが校友会総てのつながりにまで伸びて行かれん事を祈ってやまない。

来年早々には、残念会、否、反省会を持ち、校友の交わりの大切さを知り、友の力づけが世の荒波にもまれれば、もまれる程、いかにプラスになるかとも、改めて考え直す積りである。又、合わせて、残念乍ら集い得ない友、消息のない友の上にもより祝福あるを祈り度い。

最後に校友会にお願いし度い。日頃の活動には深く感謝しているが、真の活動力である校友の消息調査に尚一層の力をそいでもらいたい。

即ち校友の会を通じての交りを深めて貰い度いものである。終りに我々校友会益々の発展と繁栄を願ってやまない。

(筆者 建築学科第10回卒)

)

## (機械14回)

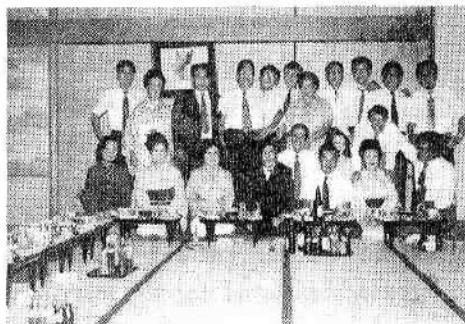
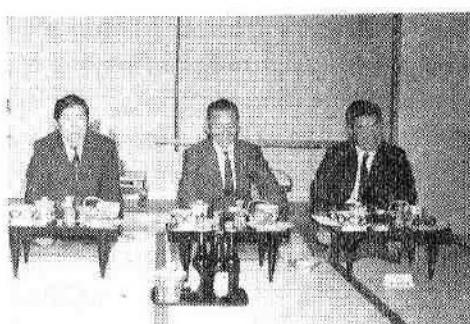
藤田要一

時代お世話になった下宿のおじさん、おばさん5人も御出席して戴き、楽しかった学生時代にもどり、大いに飲み、歌い、又昔話に花を咲かせ、すばらしい郡山での集いを持つことが出来ました。来年以降は毎年静岡の日本平で会を催すことにして、アホー鳥の名にはじることなくお互のアホーぶりと、今後の成長と発展を誓い散会致しました。

最後に御出席いただきました吉沢・菅野・柳沼の三先生に心から御礼を申し上げますと共に、皆々様の御健康と御繁栄をお祈り申し上げます。

アストロベスのメンバーは次のとおりです。

| 氏名    | 勤務先                  |
|-------|----------------------|
| 藤田 要一 | 鶴川アレス製作所             |
| 中村 悅治 | 西村商店                 |
| 吉永 克己 | 同上                   |
| 西崎 弘純 | 田中計器工業 KK            |
| 原 昭治  | 池袋テラーレ(自営)           |
| 高崎日出男 | 高崎呉服店(自営)            |
| 渡部 健司 | 柳河精機 KK              |
| 清水十三郎 | 東海日産モーター 清水営業所       |
| 鳥居 康彦 | 東洋工業 KK              |
| 飯邊 広夫 | 東海製鋼 KK              |
| 当谷 紀明 | 帝國酸素 KK              |
| 岩崎 幸一 | 岩崎自動機製作所(自営)         |
| 寺本 勝哉 | (機械15回卒) 株日本ダイヤクリメイト |
| 大成 義治 | (工化14回卒) 又永化工 KK     |



## 卒業生短信集

毎年、卒業生が思わぬ所より仕事の便りを研究室によこしてくれ、皆さんの実社会での活躍ぶりが教室で話題になる事は実に楽しいものです。以下最近の便りの一部を紹介致します。

\*三菱造船㈱の大滝静雄君（昭和36年度卒）は、納入したマレーシヤ船の保証技師として、約6ヶ月間の予定にて横浜より欧州航路の仕事についています。外国人の中でも一人の船内生活は大変だが、得るところが多いとの事です。これは7月、リバプールよりの便りです。

\*海外通商㈱の田中信忠君（昭和45年度卒）は、技術研修のため、SwissのBiel-BienneにあるMIKRON社で、9月より来年の3月まで出張中です。ドイツ語で苦労している様子。

\*日立電線㈱勤務の勝間田貞美君（昭和38年度卒）

### 短 信

#### 西 尾 功

いつも校友会報有難く拝見しております。増々着実に発展しつゝある様子、うれしく又懐しく想い出しております。小生このたび下記のとおり転居したのでお知らせします。

追伸 今年5月より2ヶ月間7月まで、国家公務員（係長級）行政研修があり合宿生活を行いました。各省庁より技術系・事務系各50人ずつで講演会・講議各シンポジウムによるデスカッション発表会等、朝9時より夕方8時迄種々のスケジュールにより、広汎な分野の研修を完了しました。平均年令30才、外国生活者あり、研修完了と同時に税務署長と成了した者等、郡山での学生生活を想い出させた2ヶ月でした。

（筆者 建築学科第13回卒業 横浜防衛施設局建設部建築課勤務）

（新住所  
）

### 研修旅行報告

#### 欧州研修旅行で感じたこと

昭和47年7月24日（月）午前10時に羽田東急ホテルに集合した私達は、そこで、学部長並びに引率の先生、交通公社の人達と最終打合わせを行い、午後2時40分羽田空港発アリタリア航空DC8機に乗り香港、バンコック、カラチ、テヘラン経由南廻りで約15時間ローマのレオナルド・ダビンチ空航に25日の朝6時に着いた。

そこからバスに乗り、ローマ市内にあるホテルに着き始めて外国に来たという興奮と期待と不安を胸に友達と2.3人で、ホテル近くを散歩に出た。あまり遠くへ

### 機械工学科 材料工学研究室

は、専用材料の立合いテスト並びに調査のため10月より米国、デトロイトに出張中です。彼は学生時代、応用物理研究会の会長で活躍しました。

\*大昭和製紙㈱の長原幹君（昭和39年度卒）は、約2年の大昭和製紙カナダ工場の勤務を終え昨年無事帰国致しましたが、このたび常夏の夢の島ハワイにて結婚式をあげたむね便りがありました。お目出とう存じます。

\*三菱重工㈱三原工場の三須光君（昭和36年度卒）は、1969年にインドにて、鋼板圧延機の技術指導中事故に逢い右手に怪我をしましたが、その後東京の病院で療養、大部回復し復職したと、今年便りがありました。最初左手で書いたはがきをもらった時は驚きました。現場で働く皆さんの安全を祈る次第です。

菅野宗和記（機械工学科助教授）

### 佐 藤 利 紀

貴局御多忙の事と思います。

今まで校友会報を送付されておりましたが、見ることなくおりましたところ、このたび拝見いたし、卒業後の母校が年数と共に立派になり、本当におどろいています。

今後共会報により、母校を知ることを楽しみにしております。

ところで校友の消息の件が、会報にて記載されておりましたので、友人の消息が不明とは残念に思います。私は一人だけわかったのでお知らせいたします。……

（以下略）

（筆者 土木工学科第4回卒 福島市水道部勤務）

（住所  
）

### 機械工学科4年 城 座 隆 夫

行くと迷子になってしまいそうなので、常にホテルの方向を確かめながら、公園のベンチにすわったり、スナックに入って、ジュースを飲んだりするくらいで、満足してホテルにもどっていたが、2日目ぐらいになると、地下鉄に乗って、いろいろな所を見て回わったりして、イタリア語など全々わからなかったが、なんとかなるものだなと思った。

朝の食事は、パンとコーヒーの非常に軽いもので、昼食や夕食には、まず、前菜としてスペゲティかスープ、それからパンと肉料理、最後にフルーツかアイスクリー

ムのデザートである。

イタリアではローマのほかに、フローレンス、水の都ベニス、経済産業の中心地ミラノなどを研修したが、いちばん印象に残っているのは、イタリア人のユーモアのある明るい人柄であった。特にローマからスイス、ミュンヘンまでいっしょだったバスの運転手は、運転しながら、イタリアの歌を歌ってくれたり、写真を見る時にも、喜んでポーズを取ってくれた。また、1日中バスを運転しても人には少しの疲れも見せない勤勉さにも感心した。

スイスには、登山の中心地インテラーケンと経済商業の都市チューリッヒに行ったが、絵はがきのような、美しい山や湖の景色と、真夏ではあったが、日本なら秋の終わりを思わせるような涼しさで、私達が行った6ヶ国の中、もう一度行けたらと思う国である。

ドイツでは、オリンピック施設のテントのような変わった建物と、ミュンヘンのビールのとてもおいしかったこと、フランクフルトの町を歩いていて、スナックのような店で食べたソーセージが大へんおいしかった。またバスでアウトバーンを通り、道路交通が非常

に発達していることを感じた。

オーストリアは、ウィーンを研修したが、特に印象に残っているものは、ハプスブルグ宮殿の庭の広さと美しさがあった。庭の広さは、約64万坪もあり、芝生や花の手入れが非常に行き届いているのにも感心した。

フランスのパリは、エッフェル塔、凱旋門、シャンゼリゼ通り、ノートルダム寺院などを実際に見たという満足、地下鉄の非常に発達していること、ルーブル博物館などの美術館が多く、有名な彫刻や絵を見ることができた。

イギリスのロンドンでは、国会議事堂、バッキンガム宮殿の衛兵交代などを研修したが、パリやロンドンでは、特に、バカンスのシーズンでその國の人よりもむしろ観光客が多かったのを感じた。

最後に、言葉がほとんどわからなくても、なんとかなるが、その國をより知るために語学の重要性を痛切に感じた。しかし、参加人数100名余りの多人数で、何の事故もなく、これだけ楽しい研修旅行ができたことは、各自の自覚と、引率の方々の御苦心があったからであると思う。

## 欧州の足

1972年7月24日(月)、異邦の地に、不安と期を胸に、出発後23時間でイタリアのローマは、レオナルドダビンチ空港に到着した。それから、スイス、ドイツ、オーストリア、フランス、イギリスの経路で見学してきました。交通機関は、勿論飛行機に、バス・鉄道等を利用したのですが、日本とは大変様子が異なるのにはおどろきました。

ローマでのことですが、歩行者や、自転車が、交通規則など意にも介さず、街を往来しているのです。

切れ目もない程、たくさんの自動車が走行している列に平然として入り込み、道路を横断したり、又交差点を斜めに利用する者すらおり、これを見ていた警察官は何も言わないのだから、交通整理の主旨が何なのか一寸見当がつかない。

これらの交通の流れが、ごく自然に行なわれ、いがみ合にも、騒動にもならないから不思議である。

ローマ以外ではしかし、この様なことはなかった。

特に太陽の道やドイツのアウトバーンなどの高速道路は、速度無制限とは言え、りっぱな走行ぶりであり、道路そのものも、ムッソリーニ、ヒットラーの残した最高の傑作と言うことで、すばらしいものであった。一般に欧州の道路は、日本の道路と比較すると、良く整備されており歴史を物語っている。

唯交通緩和と交通安全は、世界の願いであるのは、欧州でも同じであるが、交通面には、国民性が強く現われており、食事の際、酒を飲む習慣の為に昼間から飲酒運転が絶えず、我々のバスの運転手もそうであったから、乗っていて、気持ちの良いものではなかった。

## 機械工学科4年 大江範忠

ローマにおけるおかしな交通道徳もイタリア人のおおらかな気性に理由があるのだろう。

ドイツからオーストリアへは、国際鉄道を利用したが、発車のときには、ベルも鳴らずに勝手に走り出し、時間も明確でないのには、驚いた。唯気ままな点を考慮すれば、また楽しいかも知れない。日本の通勤通学を主体に、時間を最厳守する客車の性格とは、異なるだろうし、利用者の頻繁な路線では、正確になるだろう。しかし当地にでも住んで利用してみないと、誤解している点があるかも知れない。

パリの宿泊したホテルからエッフェル塔まで、地下鉄を利用した。パリで最も利用度が高いのは、地下鉄であり、それも地下鉄網が、大変良く発達しているからであろう。大変良く発達していると言っても、日本の地下鉄のイメージをパリの地下鉄に期待したのでは、がっかりする。

都電が地下を走っている様で、居住性は悪く、ドアは自動に閉じるが、開けるのは、手動である。何とも納得のいかない事である。電車にしても、自動車にしても、近代的と言う点では、日本の物が、秀れていると思う。

欧州の交通状況を、雑談しましたが、今日世界中を結ぶ空港網も欧州では発達しています。そして都心と空港間の距離も近いし、交通も便利です。

今度の新東京国際空港と都心間は、6.8Kmと世界でも例を見ない遠隔地に建設されています。

フランクフルト空港で1.2Kmと近い上、交通事情も良い。交通事情の悪い成田空港ではこれから交通施設の

大規模な拡充をしなければ、欧州の空港には追いつかないのではないだろうか。

このたびの欧州旅行で多くのものを得たが、次に行

### 学部だより

## 日本大学工学部学生クラブ振興会解散について

同窓生の皆様には、すがすがしい新春を迎えたこととお慶び申し上げます。

さて去る42年3月母校の課外活動を侧面より援助し、ますますの発展を期待し、皆様のご賛同とご協力のもとに発足いたしましたクラブ振興会は在学生の大きな期待を担って順調に運営されておりましたが、43年6月より44年2月までの大学紛争により振興会の書類一切が焼棄され、連絡はもとより、運営をも停止せざるを得なくなりしばし沈黙いたしておりました。

一方学部では学園紛争後課外活動をどのように助成すべきか検討された結果、新たに校友会、父兄会、学部の三者で組織を（工学部課外活動助成会）発足させ課外活動の助成援助に当ることになり、ますますクラブ振興会の活動の存在意義がうすくなり、会の運営並びに資金確保が困難な形勢を呈してまいりましたので思考しておりましたが名案を見えだすことができず運営停止のまま今日に至り、右記の決算報告の通り136,640円の残金を抱え困惑いたし、何んとか本来の趣旨を生かした形で役立てたいと考え、発足当時の役員の方々と相談いたしましたところ、現在工学部当局に組

織されている課外活動助成会へ残金を寄附しクラブ振興会は発展的解消することになりました。

本年ならば会員の皆様へご連絡申し上げご承認をえて解消すべきことでございますが前述の如く書類焼棄の現状をご理解いただきご承諾下さいますようお願い申し上げます。

工学部クラブ振興会々長

浜津 美佐夫

### 日本大学工学部学生クラブ振興会決算報告

| 収入の部 |         |        | 支出の部  |         |         |
|------|---------|--------|-------|---------|---------|
| 科目   | 金額      | 備考     | 科目    | 金額      | 備考      |
| 寄附   | 200,000 | 工学部校友会 | 会則印刷  | 13,200  | 6,000枚  |
| 会費   | 30,000  | 千葉甲子外  | 役員会   | 9,490   | 発足会     |
| 利子   | 14,663  |        | 印代    | 2,268   | 会長印外    |
|      |         |        | 郵送料   | 1,845   |         |
|      |         |        | 領収書   | 2,640   | 30冊印刷   |
|      |         |        | クラブ補助 | 66,780  | 東北全国大会場 |
|      |         |        | 会議費   | 11,800  |         |
|      |         |        | 預金    | 136,640 | 残金      |
| 計    | 244,663 |        | 計     | 244,663 |         |

### 学内学術研究報告会が開かれた。

昭和47年度第15回日本大学工学部学術研究報告会は12月21日午前9時30分から午後3時30分まで、工学部1号館教室において、工学部主催、校友会協賛により開かれた。報告者は学内の先生方はもちろんのこと遠くから校友も参加して、盛大に行われた。

今年の件数は次のようなものであった。

#### 一般教育科

|        |     |
|--------|-----|
| 人文科学関係 | 9件  |
| 自然科学関係 | 11件 |
| 土木工学科  | 22件 |

建築学科 23件

機械工学科 11件

電気工学科 18件

工業化学科 14件

また学外から参加された校友は次のとおりであった。

服部秀親（建築19回）ユニバーサル設計事務所

伊藤邦夫（建築18回）ユニバーサル設計事務所

牧田和久（建築20回）千葉大学工学部建築科

油浅耕三（建築14回）名古屋工業大学建築科

久慈千砂子（建築20回）教育施設研究所

藤井行雄（工業化学15回）当榮ケミカル株式会社

### 昭和48年度学生募集

- 募集学科 土木工学科、建築学科、機械工学科、電気工学科、工業化学科
- 試験期日 2月24日（土）→東京出張試験、3月9日（金）→郡山試験
- 試験科目 数学 - 数学Ⅰ・数学ⅡB・数学Ⅲ  
理科 - 物理B・化学Bのうち一科目選択  
外国語 - 英語B
- 出願場所 東京出張試験・郡山試験とともに、福島県郡山市田村町・日本大学工学部入試係
- 試験場 東京出張試験 - 日本大学講堂・郡山試験 - 日本大学工学部校舎

日本大学工学部 福島県郡山市田村町（電話 0249-44-1300）

日本大学工学部校舎配置図

圖內素

卷之三

日本大学工学部

福島県郡山市川村町徳宿宿場[目次]

重慶郵局(0348) 大英書局 1922

## 校友会だより

### 校友会事務局の移転予定について

校友会館の移転については、7月発行の会報第21号に太田会長が挨拶の中で述べてありますので、既に御承知の通りであります。

建築物は学生部室棟（仮称）と呼んでいますが、1月未完成の運びとなりました。

場所は現在の武道館の東隣り、旧大講堂の跡であります。（左記校舎配置図参照）

移転については、季節や事務を考慮して、3月下旬から4月に掛けて実施する計画で、準備を進めております。

以上予定をお知らせいたします。

### 校友会報原稿募集について

校友会報は昭和35年10月に創刊してから、昭和48年1月発行で第22号になりました。現在では年2回に計画を立てて発行し、全校友に送付し、全学生に配布しております。したがって会報の価値もますます重要性を加えてくることが期待されますので、教職員各位・校友並に学生からの御寄稿を切望いたします。大体下記項目に該当するものの中から何れなりとも結構ですから、隨時原稿をお送り下さるようお願いするわけであります。

- |                               |               |
|-------------------------------|---------------|
| 1. 科学ダイジェスト                   | 10. 学校生活の回顧   |
| 2. 研究解説                       | 11. 学生生活の実態   |
| 3. 視察見学状況                     | 12. 各種だより     |
| 4. 技術ニュース                     | (1) 校友会支部だより  |
| 5. 設計施工報告                     | (2) 学内だより     |
| 6. 実験・実習報告                    | (3) クラス会      |
| 7. 随筆・紀行文                     | (4) クラブ・クラブOB |
| 8. 各種行事の状況報告                  | (5) 同好会・同好会OB |
| 9. 個人消息（転勤・結婚・昇任・留学・帰朝・学位取得等） | 13. その他       |

### 野口英世君(機37卒)の逝去を悼む

校友野口英世君は、病気のため、昭和47年11月14日急逝されました。英世君は、昭和9年7月15日、北海道札幌の地に生を受け、父は崇高なる教育者魂をもって育み、昭和28年北海道高等学校を終えられ昭和31年日本大学工学部機械工学科に入学されました。同君は、素直で勤勉、学業成績は抜群であり、級友の親しく交るもの少なくありませんでした。本学卒業後は、日本女子工業高等学校創成期の業に、自らの全神全靈を打ち込み、同校の先生方諸氏並に、生徒等の期待を一身に集め、その輝やかしい将来を嘱望せぬ者はありませんでした。同君を失いたる今、惜別の情、禁じ得ぬところであります。校友会では、昭和47年度、評議員を嘱託しておりました。役員一同葬送の席に列し、告別の辞を贈りました。

### 事務局からのお願い

1. 住所変更、勤務先異動、改姓などの場合には、その都度なるべく早く、ハガキで結構ですから、校友会事務局にご連絡下さい。
2. 校友会との連絡がとれない～いわゆる消息不明の方についてお気付きになられましたならば、何等かの方法によって通信できるようご協力願います。
3. 終身会費の未納の校友は是非お納め下さるよう、お願ひいたします。

昭和45年度第19回までの卒業生は2000円です。

昭和46年度第20回以後の卒業生は3000円です。

## 下宿斡旋のうつりかわり

### 〔一〕斡旋機関

1. 学生課による～昭和36年2月までは、学部の学生課が学生の下宿斡旋事務を担当していた。
2. 校友会による～昭和36年3月、校友会が学生課から全面的に斡旋事務を引き受け、その業務に当り、昭和41年11月まで続けてきた。
3. 下宿対策委員会による。
  - (1) 発足～昭和41年12月
  - (2) 組織～工学部、校友会、学生自治委員会

- (3) 任務一学部は下宿斡旋の主体となるが、押し付けの斡旋をしないように配慮し、希望や意見を尊重する。校友会は学部に対して協力体制を整え、斡旋のセンターとなり事務を執行する。学生自治委員会は、学生生活改善向上のために調査関係を分担し、資料を提供し、意見や希望をのべる。

斡旋の実際については、従来の慣習と事務の性質上、下宿屋との連絡、接触には主として校友会が携わって実施しているものが現状の姿である。

要するに、よりよい斡旋をするために、三者が緊密なる連絡を保ち、同等の立場で話し合いをし、提携してそれぞれの仕事を分担して推進していく。

#### (4) 委員会組織の異動

昭和43年の学園紛争によって学生側の活動は停止したが、工学部父兄会の三者がメンバーとなって今日に至っている。父兄会の役割として懇談会の形で発言し、よりよい斡旋が出来るよう協力することである。

### (二) 下宿斡旋方法の経過

#### 1. 斡旋を主体とした時代

昭和22年4月、郡山市に日本大学専門部工科が移転開設し、次いで昭和24年4月新学制発足とともに新制大学である日本大学第二工学部（昭和41年工学部となる）が開学した。受け入れ側の郡山としては、学生を収容する宿所の態勢が整っていないので、大学当局はその開拓に苦労した。終戦後間もない時で、資材は乏しい上に物価は急上昇する困難な社会情勢の中で、早急な建築は望めなかった。止むを得ず学校周辺の民家や市内の旅館に依頼し、受入れ態勢をつくって貰ったのである。受け入れ側とは、座敷を開放したり、空屋を応急修理などして部屋の準備をした。学校側では6畳～8畳に2人～3人と配当して急場を凌いだのが実情であった。つまり当方から一定の人数を割当ててお願いする形であった。

次第に設備の整った下宿屋が出来て、下宿屋からの受け入れ申込みが来るようになった。そこで当方としては、申込みに応じて学生を配当し、配当された学生はそこに入居が決定するという具合に円滑に進行したのである。この様な形は昭和44年頃まで続いたのである。

昭和43年、44年頃になると学生数が増加したのに対して、下宿数は余り変化がなかったので、室数に不足を来たし、合部屋入居の斡旋や、遠隔地への斡旋を余儀なくされた時代となり、当委員会として開拓に苦心し、新聞広告に頼って下宿募集に努めた程であった。

#### 2. 紹介、斡旋の時代

前述のような下宿屋不足の窮状を察知した世人は増築や、専門の下宿屋新築に着手する人が続出し、下宿屋が一つのブームとなって波及した。『雨後の筍』とはこの事であろうと頷けるのである。特に大学周辺に大規模の下宿屋が現出したことに誰しも驚くことであろう。入学生的数は大体において変化がないので、昭和45年頃からは下宿数と、学生数とが逆転し、受け入れ申込みが殺到する状況となり、需要に対して供給不足のため斡旋に苦労するという珍現象を呈するに至ったのである。

そこで宿を選ぶ側にウェートを置く方法に徐々に転換を図り、学生に下宿先を紹介し、下宿屋には一応学生を配当し、双方が連絡をとり、学生が希望に添えば決定するという柔軟な方法にした。

即ち、紹介と斡旋とを併用した形であった。

昭和46～47年に掛けて更に下宿屋が増加したので、昭和47年度の入学生については、止むを得ず下宿屋からの申込数に対して、一定の比率によって配当せざるを得ない結果となり、それを実施した。この方法は一見公平のようであるが、色々と付随した問題が絡んで適正な斡旋はできなかった。

#### 3. 資料提供による時代

下宿屋の増加は依然として続き、学生数と下宿数

との不均衡な差が開くばかりとなった。そこで下宿対策委員会としては、以前から会議を開いて検討していたが、結局従来の配当を止めて、自己選定の方法を採用することになり、昭和48年度の入学生に対して実施することにした。

#### ①この方法は

下宿屋から申込みを受け、それによって『下宿一覧表』を作成し、下宿案内地図を準備して、学生（又は父兄）に対して自由に閲覧させる。学生はその中から自分の希望に近い下宿屋幾つかを調べる。

・委員会では学生に対して『訪問カード』と『決定報告書』（はがき）を渡す。学生はそれを持参して現地を訪問し、訪問カードを提示して下宿主と詳細に亘って話し合う。一ヶ所で決定しなければ訪問先を変える。決定したならば学生の持参した報告書に所要事項を記入して投函し、下宿主は速やかに電話によって当委員会に連絡する。

学生が希望条件に近い宿所を、自己の責任において選定するのであるから、安心感もあり、定着率も良いと考えられる。したがって下宿屋との間にトラブルなどが起きても最少限に抑制することができるものと思う。

#### 新しい方法を実施するに当っての留意点

(1) 下宿一覧表と下宿案内地図によって調べるといわれても、地理不案内の地に来てすぐに現地訪問は無理である。場所の説明や交通案内についての説明は親切にすべきであろう。

(2) なるべく資料によって選定させることが原則であるが、説明を求められれば、下宿屋側に対して不公平にならない範囲で、その実態を知らせるこことは差支えないであろう。注意すべき点は主觀に走らず公正な判断によって助言し、選定の参考資料を提供する程度にすべきであろう。

(3) 新入生であるので従来の例によると、学校周辺であり、小規模であり、電話設備がある～といった条件の下宿に集中する可能性は十分にあるものと考えられるので、この条件に外れている下宿屋対策が問題になることが予想される。

今後の改善策を検討しておく必要があると思う。

#### 4. 在校生に対する斡旋

在校生に対しては、従来通り紹介を主体とした方法を継続実施している。即ち下宿屋から随時空室の申込みを受けて案内簿に記載する。学生は自由に案内簿をみて、更に詳しい点を知りたい場合は登録票を調べ、又必要により当方より説明もする。学生は現地訪問して下宿主と協議して決定する。決定したならば双方から報告を受ける。このような形をとっているのである。（下宿対策委員会記）

### 校友会定期総会開催のお知らせ

昭和48年度日本大学工学部校友会の定期総会を下記によって開催いたします。別紙通知によって御承知のことと存じますが、会報により重ねてお知らせ申し上げます。

記

1. とき 昭和48年4月22日(日)午後1時
2. ところ 郡山市商工会館二階
3. 議題 予算・決算・事業計画・役員選出